いわて未来研　会報・情報誌

NPO法人いわて未来政策・政経研究会 会報・情報誌　第52号(2023.5.19)

ご挨拶

酒井大裕理学博士
と取材時に撮影

会長　相原　正明

島崎藤村の詩「初恋」にあるリンゴですが、その花が今年も咲き、早速蜜蜂が訪れていました。

お変わりなくお元気でお過ごしでしたか。

常日頃のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

昨年度は、なおコロナ禍にありましたが、計画された事業は、全て予定通り実施することができました。中でも会報の発行は遂に50号に達し、皆様の投票により愛称を「みらい研」と決定することが出来ました。

かつてインタビュー取材したマスコミの幹部の方からは、「社会的に評価され軌道に乗りつつあり、ますますのご発展を」との激励のお便りもいただきました。

14年度目に入る今年度は、十年余にわたる会活動の成果ともいえる一定の知名度、国・地方の政策に対する練度を高めた知見の集積、塾等を通じた人材育成実績などの成果を生かし、若手人材の力を導入しながら、国や地域の発展に一層の貢献をしてまいる決意であります。

会員皆様の益々のご高配・ご参画をお願いいたします。

みらい研

m i r a i k e n

〒023-1131 岩手県奥州市江刺愛宕字橋本119番地
TEL 0197-35-2134　E-mail miraiken@pon.waiwai-net.ne.jp
FAX 0197-35-2134　URL http://iwate-miraiken.sakura.ne.jp

年3回
発　行

意見交換会開催される

令和5年2月25日(土)に奥州市の水沢地区センターにおいて、県ILC推進局 特命参事兼ILC推進監 高橋則仁氏との意見交換会が開催され、22名が参加しました。

演題は、「ILCプロジェクトが創る岩手の未来」で、豊富な画像・データを盛り込んだ資料を基に

分かり易いお話をいただきました。

3名から「日本学術会議、文科省有識者会議等の意見を取りまとめる努力を強力に」、「予算所管を文科省から変えるべき」等の意見が出され、講師は拝聴しつつ、丁寧に答えていました。

NPO法人いわて未来政策・政経研究会　会報・情報誌　第52号(2023.5.19)

お知らせ

会の発展のため、加入促進方を宜しくお願いいたします。

R5.5.19 現在会員数

個人正会員(年会費2千円)　155名
個人賛助会員(年会費1千円)　62名
団体正会員(年会費2万円)22法人・事務所
団体賛助会員(年会費1万円)2法人
合計　241名・法人

ご寄附御礼

前回会報(第51号)で報告した以降の状況。金額25千円(R4年度寄附の累計50千円)

―寄附者ご芳名―

佐藤　信治　様　(9)
神田　健幸　様　(6)
千田　敏彦　様　(4)
藤田　　勝　様　(4)
佐藤　啓子　様　(2)

( )内は金額(千円)

お願いなど

ご提言募集

❋　第11回目となる行政機関、政党等への政策・意見提言活動を次により、実施します。

①5月及び9月の会報で会員に呼びかけ、意見等募集→②9月の会報で中間報告→③12月の理事会で提言内容と活動手順を確認し、マスコミ発表→④12月～2月に訪問や文書による提言行動

❋　この会報に同封した用紙または適宜の方法により、是非お声をお寄下さい。

会の財政を支える会費につきまして、多大のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

会費納入のお願い

未納の会員におかれましては、何とぞよろしくお願いいたします。

編　集　後　記

酒井大裕氏のインタビュー記事に、「科学技術の基礎研究、天文学、素粒子などすぐに実用化に結び付かない分野では、ここ10～20年の研究費が減少してきている」、「基礎研究を一度止めると再開が難しい、10年後か100年後に役立つかも知れない研究を大切にしてほしい」旨のお話がありました。

また、石杜記者の取材リポートに、由比進氏が野菜新品種の研究を長年続け、研究を開始してから38年の時を経て品種登録出願を果した旨の報告がありました。

私も一つの科学技術プロジェクトを評価する際に、具体的に何時、どのように日常的生活にプラスになるのかと考えたくなることがあり、もっと長い目で見て信じ、応援すべきであったと反省しています。その心持ちで、本号の付属資料として小論を掲載しましたので、そちらもご覧ください。(相原)